

校長室だより

No. 14

平成 27 年 7 月 10 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かず
加藤嘉一

学校教育でなければ得られない宝物 ー山の学習（5年）ー

5年生が、7月7日（火）～9日（木）にかけて、岡崎市少年自然の家で山の学習を行ってきました。天気はあいにく3日間とも雨降りとなりましたが、おかげで、雨でなければ得られない体験をすることができました。

本年度のわたしの学校経営方針に、「体験する活動の充実」を書きました。「この体験は本校だけではない」と言われるかもしれませんが、学校職員の意識の違いで子供たちの学びは変わります。今回予定通り行えた活動と変更した活動があります。そんな中で、その瞬間瞬間に子供たちのすてきな姿と成長がありました。本校の子供と職員だからこそ共有できた貴重な体験になったと実感しています。子供の姿の一部を御紹介します。

今回の主な活動内容

《1日目》

- 入所式 ○テント作り
- 飯盒炊爨（カレー等）
- 広場でのレク

《2日目》

- 飯盒炊爨（味噌汁等）
- 物品返納 ○奉仕活動
- ウッドバーニング
- キャンドルファイヤー

《3日目》

- 清掃 ○体育館でのレク
- 退所式
- ※朝夕の集い、テントやロッジ内のトランプなどももちろんありました。

○1年生が、5年生のために七夕飾りを作ってくれていたこと

○入・退所式のあいさつ、歌声が本当に素晴らしかったこと（これは、少年自然の家の所長さんと指導員さんが別々に「これまできた31校の小学校の中で一番素晴らしかった」と言われました。）

○飯盒炊爨活動で、分担された仕事を済ませば、火がおこせず悪戦苦闘している班の子の様子に何も動くことができなかつた子が、2日目には、自分の仕事だけでなく、手伝ってあげなければならない班員の子を探すなど、気を利かす姿へ成長していたこと

○飯盒炊爨後の生ごみが最も少なかったこと（55人でスーパーのビニール袋1/3位）

○ウッドバーニングやレクリエーションなどの活動に変更されれば、「これがやれてよかった」とプラス発想のことばを口に出し、楽しんでいた子

○普段食の細い子が、おかわりまでするほどしっかり食べていた様子

○ファイヤーの時に、学校職員の劇中に突然登場を誘われて、おもしろおかしく役割を演じた子 等々



家庭やある団体が開くキャンプと違って、これまで共に生活をしてきた 51 人の仲間で行う山の生活だったことと、担任の先生と一生懸命に当日まで準備した活動であることが、こうした成長の姿を生みました。そして、子供たちのほかでは体験できない



思い出となり、一生忘れない思い出に昇華したと思いました。これは、担任の先生達が、「みんなの楽しい思い出を作るには何をしていくことが大切なのか」「集団での宿泊で大切にすべきことは何か」「一人一人が担う責任とはどういうものか」等を、指導し続けてきたからです。しかも「あたたかく」「体験する活動の充実」を、担任の先生たちが、しっかり実践してくれていました。このほかにも、三浦先生がギターを使って、その場で子供たちと即興でオリジナル曲を作り上げたり、ファイヤーのときには、事務の佐藤さんや栄養職員の小菅さんも職員劇に登場して子供を楽しませてくれたり、さらには過去の六ツ美中部小学校の先生も応援に来てくれました。手前味噌で恐縮ですが、六ツ美中部小学校の職員のあたたかさが溢れていました。5年の行事ではありましたが、六ツ美中部小学校職員全員が、子供のためにできることを行っていました。心底職員と子供の姿を愛おしく思いました。

「人生の豊かさは、思い出の数の多さである」と言った人がいます。わたしの退所式の話では、「この山の学習だからこそ得られた思い出を宝物にし、忘れずに大切にしましょう」と語りました。大人になってもこのときのことをふと思い出し、「楽しかったな」と思ってくれたら、わたしたちは幸せです。

来週から保護者会 どうぞよろしくお願ひします

1学期が終了しようとしています。13日(月)・14日(火)で保護者会を行います。担任と保護者とで、今学期のお子様の頑張りと今後伸ばしていきたいこと等を懇談します。また、学校運営等、学校全体に関わることでお気付きの点がありましたら、担任にお知らせください。担当・学校職員で御意見を参考にさせていただきます、2学期や来年度の取り組みに生かしていきます。よろしくお願ひします。